

浄土真宗の教章（私の歩む道）

浄土真宗の教章（私の歩む道）
 宗名 浄土真宗
 宗祖 親鸞聖人
 （ご開山）
 ご誕生 1173年5月21日（承安3年4月1日）
 ご往生 1263年1月16日（弘長2年11月28日）
 宗派 浄土真宗本願寺派
 本山 龍谷山本願寺（西本願寺）
 本尊 阿彌陀如来（南無阿彌陀仏）
 聖典
 ・釈迦如来が説かれた「浄土三部経」
 『仏説無量寿経』 『仏説観無量寿経』 『仏説阿彌陀経』
 ・宗祖 親鸞聖人が著述された主な聖教
 『正信念仏偈』（『教行信証』 行巻末の偈文）
 『浄土和讃』 『高僧和讃』 『正像末和讃』
 ・中興の祖 蓮如上人のお手紙
 『御文章』
 教義 阿彌陀如来の本願力によって信心をめぐまれ、念仏を申す
 人生を歩み、この世の縁が尽きるとき浄土に生まれて仏と
 なり、迷いの世に還って人々を教化する。
 生活 親鸞聖人の教えにみちびかれて、阿彌陀如来のみ心を聞
 き、念仏を称えつつ、つねにわが身をふりかえり、慚愧と
 歡喜のうちに、現世祈禱などにたよることなく、御恩報謝
 の生活を送る。
 宗門 この宗門は、親鸞聖人の教えを仰ぎ、念仏を申す人々の
 集う同朋教団であり、人々に阿彌陀如来の智慧と慈悲を伝
 える教団である。
 それによって、自他ともに心豊かに生きることのできる社
 会の実現に貢献する。

『連研ノートE〔改訂版〕』目次

第25代専如門主 伝灯奉告法要 ご親教「念仏者の生き方」

「私たちのちかい」についての親教

浄土真宗の教章（私の歩む道）

「連研」のねらい（受講者のみなさんへ）…………… 2

話し合い法座について…………… 4

ご親教「念仏者の生き方」から学ぶ〔講義概要〕…………… 7

12の問い ―サブテーマ（私の問い）― …………… 15

各問い …………… 20

[資料]

浄土真宗本願寺派宗制…………… 68

「御同朋の社会をめざす運動」（実践運動）

総合基本計画・重点プロジェクト…………… 72

門徒推進員より、門徒推進員中央教修のすすめ…………… 76

門徒推進員規程…………… 78

「連研」のねらい（参加者の皆さんへ）

◆ ようこそ

ようこそ門徒推進員養成連続研修会（連研）にご参加くださいました。あなたはどのようなきっかけで、この度の「連研」に参加されましたか。そして、この「連研」に何を期待されるでしょうか。

「おつとめや作法、仏教や浄土真宗の基礎的知識を教わる研修かな？」と期待されて来られたかもしれませんね。しかし、この研修は単に浄土真宗のみ教えを教わることだけが目的ではなく、浄土真宗のみ教えが、あなた自身の今の生活の指針となり、さらに、生きていくうえでかけがえのないものであると受け止められ、あなたにとって、生きる意欲が引き出される研修となることをねらいとしています。

◆ 12の問い

連研ノートEには「12の問い」があり、自分の内面を掘りさげ、視野を広げ、新たなであい（確かな価値観＝仏教の教え）をいただくという構成にしています。

毎回、テーマに基づき参加者が班に分かれて話し合いをしていただきます。これを「話し合い法座」と呼びます。話し合い法座は、参加者が「ともにみ教えを聞き・ともにみ教えに問い・ともにみ教えを語る」場所です。みんなが話しやすい雰囲気をつくり、自分の思いや体験など、積極的に自分の言葉で自分を語る場にしていきましょう。

まず、皆さんが等しく求めている「幸せ」について話し合いをしていただきます。あなたの幸せの価値基準はどのようなものでしょうか。他の皆さんはどうでしょうか。他の方の話に耳を傾けてみましょう。黙って考える時間も大切にしましょう。幸せの基準はみんな同じなのでしょうか。問いのそれぞれに決まった答えはありません。多様な考えが話し合われるはずです。多様な考えも尊重し合しましょう。

◆ 「連研」のねらい

「12の問い」は、浄土真宗の知識がない方、寺院との関係の浅い方、家庭にお仏壇を持たない方、誰もが身構えずに取り組むことのできる問いからスタートしています。それは一見、今まで聞いてきたご法話とは関係のないテーマに思われるかもしれませんが、仏教を学びお念仏をいただく私たちの生活に深く根ざしているのです。

◆ 連続の意味

「連研」は、12回連続してご参加いただく長丁場の研修です。しかし、12回の研修だけが連続なのではありません。今日より毎日の暮らしのなかにおいて、これから「連研」で話し合うさまざまな問いを受け止めていくことにこそ、連続の意味があります。そしてもちろん、12回の研修が終わってもこの連続の意味は変わりません。それは「連研」そのものが自らの生き方の確立をめざすものであり、「自他ともにいのちかがやき、心豊かに生きる道を求め続ける」歩みであるからです。

多くの参加者の皆さんとともに、

- ①当てが外れても、思いが叶わなくても、自分を見失わない生き方。
- ②ゆるぎない安心を土台に、このままの自分と社会ではいられなくなる積極的な生き方。

を、連続してみ教えに問いたずねてまいりましょう。

◆ ご親教「念仏者の生き方」から学ぶ〔講義概要〕

平成28年10月1日、伝灯奉告法要の初日に、専如ご門主は「念仏者の生き方」をお示しく下さいました。このご親教はその題名にある通り、私たち念仏者が浄土真宗のみ教えに出会い、阿弥陀如来の救いにあずかることによって、それまでの私たちの生き方がどのように変えられ、この現実世界でどのように生きていくようになるかを示された大切なご教示です。ご親教を繰り返し熟読し、理解を深めてまいりましょう。

話し合い法座について

～話し合い法座とは、人と人との温もりを、心と心のつながり確かめ合うなかに、自分を再発見できる場です～

◆話し合い法座

みなさんは今までご法話を聞いたことはありますか？ 聞いたことがある人のなかで、分からないことや質問してみたいことはありませんでしたか？ 「連研」での法座とは、僧侶が一方的に話をし、参加者が一方的に聞くという従来のスタイルとは異なり、聞いたことや分からないことを、日常生活の疑問や悩みを通して確認し合う【話し合い法座】です。

しかし、一般的なQ&Aではありません。「連研」で「聞く・話す」ということを繰り返しながら、日常の生活を通して、仏教、浄土真宗のみ教えに問うていくことに大きな意味があります。

ここに集まっている一人ひとは、それぞれに辛いことや悲しいこと、嬉しいことや喜ばしいことなど、さまざまな経験（体験）をし、胸の奥に抱えています。ものごとの捉え方や考え方も異なります。それぞれの違いを認め合いながら話し合うことは、そのまま聞き合うということにもなります。お互いに心を開いて話し合える、聞き合えることは、きっと素晴らしい時間を共にすることになります。心の奥底にあるものを、お互いに引き出し合いながら、今日の【であい】を深めてゆく。そんな空間が【話し合い法座】です。

通常では、まず連研スタッフより、話し合いの糸口となる問題提起がなされます。問題提起を受けて話し合いを始めます。その後、話し合った内容の報告をいただき、連研スタッフによるまとめがあります。その一つひとは別々のものではなく、すべてを含めて「連研」であることをご理解ください。

◆話し合い法座の進め方と注意したい（心がけたい）こと

・まず自己紹介ののち、司会者（話し合いの進行役）と報告者を決めましょう。時間には限りがあります。司会者は全員が話をできるように配慮

をし、班の人は、自分の話が長くなりすぎないように心がけましょう。報告者は、話し合われる内容を箇条書き程度に筆記します。班としての意見をまとめる必要はありません。

- ・みんなの声が聞こえるような距離を保ち、そして、お互いが聞き取りやすいように話しましょう。
- ・沈黙の時間があってもそれは決して悪いことではありません。みんなの話を聞きながら自分の思いを確認する大切な時間です。なぜなら、沈黙の時間があっても皆さんの心は間違いなく動いているのですから。
- ・連研スタッフも参加しますが、ともに聞かせていただく一人です。話し合いがうまく進むように方向修正する場合がありますが、一問一答にならないように心がけましょう。

◆話し合い法座の報告

- ・報告者は話し合いの内容を報告します。まとめる必要はありませんので、話し合った内容をそのままお話しください。また、話し合いの時間の終わりに、報告する内容を各班で確認しましょう。
- ・他の班でどのようなお話がされたのかも、しっかりと聞きましょう。

◆まとめ

- ・皆さんの話し合いの報告をうけて連研スタッフよりまとめがあります。しかし一問一答ではありませんし、答えを出すことでもありません。問題提起と話し合いに沿った皆さんへの問いかけとしてお聞き取りください。そして日常生活のなかで再び自分に問いかけてみてください。【み教えを聞く】といういとなみから、【み教えに聞く】という人生がひらかれてくるでしょう。

◆全体を通して

- ・「連研」は参加者の皆さんと連研スタッフ全員で創りあげるものです。皆さんの要望や感想も気軽に連研スタッフにお聞かせください。ともに問い、ともに法を聞き、ともに法を語り合しましょう。